

後援会だより

第 15 号 2013. 2. 15

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

○ごあいさつ

後援会会長 緒方 直人・・・1
法文学部長(後援会顧問) 平井 一臣・・・1

○専門職大学院報告

司法政策研究科長 米田 憲市・・・2
臨床心理学研究科長 安部 恒久・・・3

○就職支援事業

就職ガイダンス参加学生支援・・・3

○就職支援室・・・4

○主な支援事業の成果報告

〈法政策、人文：留学における単位修得支援〉・・・5

〈経済：演習・特殊研究の野外実習〉・・・7

〈経済：釜山海外野外実習〉・・・7

〈人文：フィールド学野外実習〉・・・8

〈地域：大学院生の学会発表支援〉・・・9

○保護者の皆様からのメッセージ・・・9

○保護者アンケート集計結果・・・10

○平成 24 年度後援会役員一覧・・・16

後援会会長ごあいさつ

鹿児島大学法文学部後援会
会長 緒方 直人

巳年の新年を迎えました。2001 年が巳年でしたから、21 世紀は人間なら年男か年女です。何はともあれ、21 世紀が同じ十二支の年を迎えて豆まきをするのなら、「福」豆をまいてほしい、その福豆の中に、教育関係予算、取り分け国立大学の予算増が含まれてほしいと願うのですが、現今の政治・財政状況からみると、減ることはあっても予算増は期待薄のようです。むしろ、弾丸とか爆弾とかが撒かれなければよいかと、懸念するのは私だけでしょうか。

今春卒業予定者の就職内定率は若干改善したかのような報道もなされているようですが、非常に厳しい就職状況に大きな変化はないようです。団塊の世代が定年でごっそりと抜けた穴を埋めずに、日本経済は再生するのだろうかと思惑に思えます。本学の内定率がどうなったのかは、この文章を書いている時点で把握していませんので、少しは改善されたことを期待するのみです。

どうも夢のないことばかり書いてしまいました。そうであればこそ、ますます法文学部後援会の役割が比重を増すものと思われれます。後援会長としての私の任



期も3月までですが、後援会会員、教職員そして学生のみなさんの英知が結集されて、後援会活動が活性化していくことを祈念しています。

法文学部長(後援会顧問)ごあいさつ

法文学部長 平井 一臣

日頃から法文学部の教育・研究にご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

周知の通り、長引く不況のなかで、大学生の就職環境は依然として非常に厳しいというのが現実です。そのような厳しい状況のなかにあっても、法文学部生の多くは、自らの目標を定め、その目標達成のために地道に努力を積み重ねています。そうした学生たちの真摯な姿勢を目にするたびに、我々教職員も少しでも彼ら・彼女らの能力を引き出すことができればと考え、様々な活動を展開しているところです。

この紙面をお借りして、平成 24 年度の法文学部における教育・研究活動のなかの特徴的な取り組みをいくつか紹介しておきたいと思います。

第一は、教育内容改善の取り組みです。近年、大学における教育の「質」が問われるようになり、とくに学部学生に対する「学士力」養成が急務の課題とされています。法文学部では、人文学科で取材学習を



取り入れた教育改革が順調に進められており、また、法政策学科・経済情報学科においても社会科学教育の新たなプログラム作りの試みを進めています。

第二は、就職活動に対する様々な支援の展開です。学部独自の就職支援室による指導や、講演会や体験報告会の開催、さらには学部共通科目としてのキャリア関連科目の開設など、これまで積み重ねてきた就職支援に関する活動を強化しつつあります。

第三は、学生のメンタル面での問題への対応です。近年、様々な悩みを抱える学生の問題は看過できない問題となっています。学生の悩みを少しでも緩和し、円滑な学生生活を送ることができるよう、専門家を招いた心理相談会を行っています。

第四は、国際化への対応の強化です。本年度は、アメリカのサンノゼ大学との共同授業の実施や、中国における大学院現地入試の導入など、新たな取り組みも始めました。グローバル化が進むなかで、コミュニケーション能力を持ち、国際感覚豊かな学生を育てることは、今後ますます重要になってくるかと思います。

こうした様々な取り組みを通して、鹿児島大学憲章にもうたわれている「進取の精神」を持った若者を社会に送り出すことができると考えております。

後援会からご支援いただいた事業の一部については、『後援会だより』の記事、あるいは、後援会総会等での学生自らの発表、などを通してお伝えしているところですが、今後ともご理解とご支援をいただきたく存じます。

専門職大学院報告

鹿児島大学大学院

..... 司法政策研究科長 米田 憲市

平成 24 年度活動報告と課題

司法政策研究科では、法曹養成を担う専門職大学院（法科大学院）として、本年も、「地域に学び、地域に貢献する」ことを運営理念として、基本的人権を擁護し社会正義の実現のために地域に尽くす次世代の法曹を養成する努力を継続しました。

司法試験では、昨年度の3名の合格者に続き、今年度は4名の合格者を得ることができ、これまでの努力が実を結びつつあることを実感しています。



法科大学院の今年度の注目されるべき新たな取り組みとして、地域を支える人材を、地域で育てるという取組を強化するために、法文学部法政策学科の法曹志願者を対象とする「法律学特殊講義（法曹実務）」を開講したことがあります。これに加え、来年度からはゼミ（演習「法曹実務」、課題研究「法曹実務」）を開講します。このことにより、法政策学科では、平成23年度入学者からは2年後期から、平成24年度入学者からは2年次から「法律学特殊講義（法曹実務あるいは司法実務）」を履修し、ゼミで「法曹実務」を履修することで、学部の段階から徹底した形で法曹を目指すことができる学習環境を提供します。

平成24年度より国家公務員試験が法科大学院教育を踏まえた変更がなされ、法科大学院修了者に有利な試験になったことや、企業でも法曹資格者の採用が進んでいる状況の下、法律を学んだ者へのニーズは「つぶしのきく法学士」から「鍛えられた専門家」へとシフトしています。今回の取組は、こうした状況に対応するために、法科大学院としての取組の充実と合わせて、法政策学科との協力の下で学部レベルの教育の充実を図り、大学としての法学教育全体をバージョンアップしようとするものです。

さて、法科大学院本体の取組としては、「授業と学修の共同改善」をFD活動のスローガンとして、教員・学生が一体となって目標の達成を目指す環境の醸成に取り組んできました。特に、授業の充実を目指して、①双方向型授業によって、事実の分析力、法的判断力、表現力を育てること、②シラバスを通じて、予習・復習の指針としての毎回の授業到達目標を明示することを徹底しています。また、「優」の評価は全体の20%以内、GPA1.7という厳格な成績評価を実施しており、修了生の専門家としての質の保証をする取組を継続しています。法文学部出身の弁護士によるチューターも、積極的に活用されており、学生たちの意欲に応える体制を充実させました。

法科大学院設立以来取り組んでいる、離島等司法過疎地における法律相談実習は、昨年に続き2月9日と10日に徳之島で実施します。この取組は、後援会のご支援をいただいている事業です。相談技法や当事者間の利害調整の技法だけではなく、地域風土を感じ、地域ニーズを知ること、地域に貢献する使命感、倫理観を涵養することを目指した、全国でも最も意欲的と評される取組であり、授業に協力したい、取組の詳細を知りたいという弁護士や他の大学の教員が増えています。

法科大学院では、総合教育研究棟7階の司法政策研究センターで、月数回の無料法律相談の実施も継続し

ています。また、法科大学院の取組は、毎月発行されているニューズレターをご覧くださいと思います。ともに、法科大学院のホームページで広報をしています。是非ご覧くださいと思います。
<http://www.ls.kagoshima-u.ac.jp>

鹿児島大学大学院
..... 臨床心理学研究科長 安部 恒久

平成 24 年度活動報告

後援会の皆様には、これまで多くのご支援を賜り厚く御礼申し上げます。本稿では、臨床心理学研究科の近況（24 年度活動報告）として、研究科の強みであり特色でもある 1. 高度専門職としての臨床心理士養成、2. 地域支援プロジェクトの実施の二つを報告させていただきます。

1. 高度専門職としての臨床心理士養成

臨床心理学研究科は、高度な専門職である「臨床心理士」を養成するために、平成 19 年 4 月に、日本で初めて独立した研究科として鹿児島大学に誕生しました。したがって、まだまだ課題も多く、全教員が協力して課題克服に取り組んでいるところです。さいわいに、本研究科の教員は全員が臨床心理士の資格を有しており（内 1 名は医師免許保持者）、学生教育にあたって共通の目標を共有しやすいという利点があります。おかげさまで、入学者はこの 6 年間 15 名の定員を確保でき、受験者は全国から鹿児島に集まっております。受験者は、鹿児島大学の教育課程に強く魅力を感じているようです。また、就職も毎年ほぼ 100% を達成し、修了生は公務員や医療、福祉などの現場で活躍しております。さらに、臨床心理士の資格試験はノルマとされる 80% を超えており、全国平均のおよそ 60% を大きく超えております。

2. 地域支援プロジェクトの実施

臨床心理学研究科では、単なる臨床心理士養成だけでなく、地域の皆様と協力しながら、地域での相談活動にも重点をおいています。23 年度に引き続き、24 年度においても、文部科学省特別教育研究経費（教育改革）による「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」を実施しました。

このプロジェクトは、デリバリー方式による地域への貢献を推進し、地域の相談ニーズを掘り起こすだけでなく、学生諸君がチームアプローチを学ぶ大切

な機会でもあります。

このプロジェクトは 25 年度も継続して実施する方向で進めており、26 年度以降は「国際的視野に立った『こころの危機』への予防的支援システムの構築」に向けて取り組むべく準備を開始しているところです。

これらのプロジェクトの成果は、学会等で発表されるとともに、毎年、冊子としてまとめられ、全国の臨床心理士養成大学院 164 校に対して、高度専門職養成のモデルとして提供しております。

以上のように、臨床心理学研究科は、小さな部局ではございますが、鹿児島大学の「進取の気風」をなんとか全国に示すことができているのではないかと自負するところです。これも、後援会の皆様のご支援のおかげとあらためて感謝申し上げますとともに、今後ともいっそうのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

就職支援事業

～就職ガイダンス参加学生の交通費一部支援事業～

法学部後援会では、学生の就職活動中に支出した交通費一部支援事業を行っています。後援会加入学生に対し、県外での企業説明会、採用試験、合同企業説明会（ガイダンス）等の参加に係った交通費の一部を補助しています。長引く就職活動のなか、少しでも学生の負担を軽減できればと願っています。

ここでは、この支援事業を利用し就職活動を行った学生から就活報告を行ってまいります。

後輩たちに向けて心強いエールを送っています！！

「交通費支援事業を利用して」

..... 経済情報学科 4 年 西尾 ふみの

就職活動を意識し始めた大学 3 年生の夏、私はまず就職活動を終えた先輩方から体験談を聞くことにしました。右も左もわからない私は、初めて聞く就活用語や就活スケジュールに圧倒され、ただ焦りだけが募っていきました。先輩方の苦勞された話を耳にするたびに、うまく自己 PR ができるのか、企業から内定をいただくことができるのかと、とても不安になりました。夏休み後半からは就活サークルに参加し、少しずつ活動を始めました。

私たちの代から就職活動日程が変更され、従来の 10 月 1 日から 2 カ月間繰り下げて 12 月 1 日開始となりました。「超短期決戦」の厳しい就職活動になっ

たため、企業の「広報活動開始」から「選考開始」までの期間が短縮されました。私のスケジュール帳は説明会の予定で埋め尽くされていき、アルバイトを辞めざるを得ませんでした。私は勤務地を地元鹿児島に絞り、就職活動を進めていくことにしました。しかし、地域限定採用を行っている大手企業の説明会は、九州圏内では福岡でしか開催されないものが多く、交通費がかさみ、金銭的な負担が重くのしかかりました。

そんな時に、友人から法文学部後援会の交通費支援事業の話を知りました。その内容は、法文学部後援会のご協力のもと、学生が就職活動中に支出した交通費の一部を補助していただけるというものでした。1か月につき説明会3回分、1回につき1,000円を支給されました。この支援もあって、県外開催の説明会や選考にも参加することができました。その結果、2社から内定をいただき、来春から地元の企業で働くことになりました。

就職活動期間中は自分ととことん向き合い、将来について考える日々でした。たくさんの方との出会いの中で刺激を受け、学ぶことも多かったです。その反面、上手くいなくて落ち込んでしまうこともありました。そんな私を支えてくれる家族や友人、先生方の存在は私の大きな励みになりました。周囲の人の大切さや有り難さを実感した1年でもありました。

就職活動で大切なことはあきらめないことです。失敗から学び、ポジティブに努力し続ければ、必ず良い結果が出ると信じています。体調管理に気をつけながら頑張ってください！

そして、最後になりましたが、このような支援をしてくださった後援会には本当に感謝しております。この支援を無駄にしないよう立派な社会人になりたいと思います。

「就活体験記」

..... 人文学科4年 原口 果歩

私は、3年生の5月から大学生協が行っている公務員講座を受講しました。公務員講座を受ける際まず言われたことが、民間企業の採用時期が早まったため、公務員試験と時期が重なってしまい、民間企業と公務員試験との両立は難しいということでした。そして、どちらか一方に絞ることを勧められました。そのため、私は公務員試験だけに集中することを決めました。

私が公務員を目指した理由は、両親共に公務員であるため、公務員という職業が自分の身近なもので

あったからということと、利益を優先せず社会の為に働けるのではないかと考えたからです。4月から公務員試験が始まり、毎月受けられる試験は全て受けました。8月になり、公務員試験の前半が終わりでしたが、一つも一次試験を通過することができませんでした。

この頃、本当に公務員になれるのかなという不安が湧いてきて、私の中に公務員を諦めて、民間企業を受けようかなという思いが出てきました。しかし、公務員になると決めたからには、最後までやってみようと思い直しました。

私は鹿児島で育ったので、鹿児島で公務員になりたいと思っていましたが、鹿児島の公務員試験は倍率が高かったため、鹿児島より倍率の低い福岡の公務員試験に変え、9月からは福岡に公務員試験を受けに行きました。10月になりやっと一次試験を通過することができ、二次試験に進むことができました。公務員試験は結果が出るのに3週間から4週間ほどかかるため、その間は落ち着かない日々でした。採用通知をもらったのは11月最後の日でした。その時は嬉しさと安堵感でいっぱいになり、途中で諦めなくて本当によかったと思いました。

公務員試験は長期戦なので、途中で不安やあきらめの気持ちが出てくることもありましたが、それを乗り越えて頑張ること、一つ一つの結果に一喜一憂せず、自分のペースを保っていくことが大切だと思いました。そして、最後まで諦めずにいることが最も大切であるということを知りました。

就職支援室

～平成24年度活動報告～

法文学部就職支援室

..... 室長 藤田 紘一

今春卒業する4年生は、3月11日に発生した東日本大震災により未曾有の大被害が発生し、その震災の影響に加え、長引く円高、欧州における不安定な金融情勢、電力供給の制約等懸念材料を数多く抱え、経営環境が厳しい条件下での就職活動となりました。

今年度の採用数は、情報各社のアンケートによると前年度並みとの回答がほとんどですが、是が非でも学生を確保したいとする企業は少なく、前年同様まだ暫くは企業優位の採用市場が続くものと考えて

います。また、特色としては、マスコミでも大きく取り上げられている大手企業を中心とするグローバル人材の採用、そして採用重点層に的を絞ったターゲット採用の広がりといったことなど、理系に対する期待はなお強い反面、その採用基準は「量より質重視」と「人柄重視」の傾向がさらに強まっています。

学部全体の就職内定率は、平成24年12月1日現在55.3%（前年同期比▲0.3%）とほぼ前年並みとなっているものの、全国大学生の就職内定率63.1%（前年同期比+3.2%）に比べれば大きく下回っています。

この原因は、県内有力企業のトップあるいは、人事部役員が揃って口にする鹿大生のイメージが暗い、話下手だ、特に目上の人との話が苦手と言われるように、面接重視の採用試験に弱いという事です。

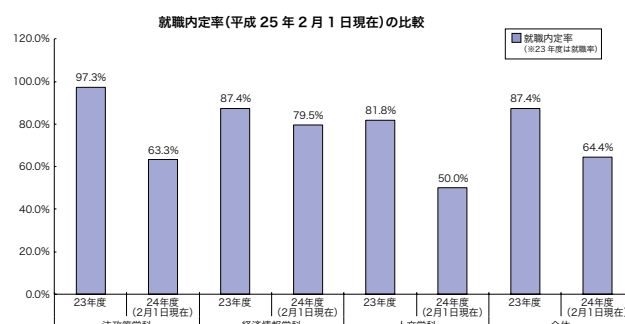
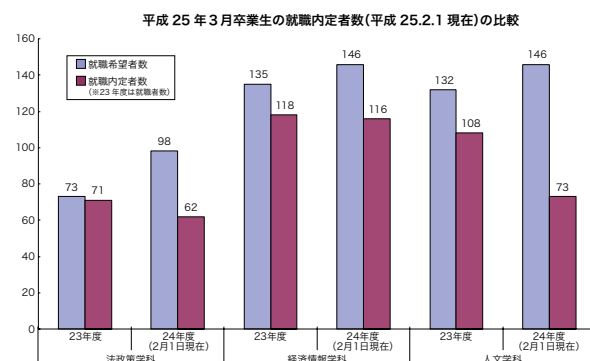
そこで、現在就職活動中の3年生の学生は、面接に強くなるために次の点に注意してもらいたいと思います。

①ボランティア・インターンシップ・アルバイト等に積極的に参加して、目上の人や見知らぬ人に自分から話しかけるよう注力し、面接の雰囲気慣れること。

②好印象をアピールするための（イ）まずは挨拶、

明るく元気よく礼儀正しい挨拶をすることが重要。（ロ）見た目と表情を良くするよう心掛ける。表情はもちろん笑顔で。

大事なことはキビキビ・ニコニコ・ハキハキ。これを心掛けていれば良い印象を与えられると思います。



主な支援事業の成果報告

法文学部後援会では、保護者会員の皆様からお預かりした会費を、学生の海外調査実習の旅費や教育・研究活動の経費の補助に活用しています。ここでは、その一部について成果報告としてご紹介します。

留学における単位修得支援

～留学報告書(ドイツ・ミュンヘン大学交換留学)～

..... 法政策学科4年 小野 愛加

私は学部四年時に学部間の交換留学制度を利用し、ミュンヘン大学法学部に一年間在籍しました。ミュンヘン大学に在籍中、法学部の講義を三科目受講しました。また、私は言語学や文化学など鹿児島大学では受講する機会の少ない科目にも興味があり、他学部の講義を合わせると計八科目を受講して

いました。

全ての講義を通して私が最も印象を受けた点は、学生の講義への取り組み方が日本と違うことです。日本の大学で行われる講義もドイツ同様、各九十分の予習と復習を前提に行われていますが、ドイツの学生のほとんどはそれを忠実に守り、明白な目標や志をもって講義に出席していたように思います。確かにそれは特別なことではなく、学生として当然の心構えではありますが、今までの自身の学業に対する取り組みが不十分であったことを痛感しました。

講義の前半数回は予習不足でほとんど理解することができませんでした。後半は講義を通して知り合った友人と週に一度勉強会をおこない、助けをもらいながら講義の理解に努めました。なお、授業外の時間に直接教授を訪ね、質問受けをしていただいたこともありました。その結果、計四科目の単位を取得することができました。

私は大学の講義を正確に理解するために、大学と並行して語学学校に一年間通いました。語学学校は週五日開講され、毎日の自宅課題と週二回の確認考



査という引き締まった環境の中、ドイツ語を集中的に効率良く学ぶことができました。語学学校では読み、書き、聞き取り、会話等、総合的にドイツ語能力を身につけ、語学学校卒業時には DSH (Deutsche Sprachprüfung für den Hochschulzugang) というドイツの大学に正式に入学するためのドイツ語語学能力試験に合格することができました。

帰国した今、これからの課題はドイツで培った学業へ取り組む姿勢を継続することですが、具体的にはかつての受身の姿勢をやめることだと考えます。九十分の講義を真剣に取り組むだけでは不十分であるため、課題ではなくとも前提とされている予習や復習を確実にを行い、自分が授業に参加しているという自覚を常に忘れないことが必要です。何においても与えられる課題を待つのではなく、自分から求める姿勢を崩さないこと、自分たちの姿勢次第で得るものは何倍にも膨らむこと、これら全てをいつも心にとめて講義に臨みたいと思います。そもそもこれらの課題は、学生として当然の行いであるかもしれません。しかし実際に世界中の学生の姿を目の当たりにすることで、自分が怠惰であったことに気づき、変わらなければならないと強く決心できたことは、一番の収穫であったと思います。残りの短い学生生活、一分一秒を惜しんで学業に組み、そこで培ったものを社会に出て発揮していけるように努めたいと思います。

～2012年度オートブルターニュ 第二大学への交換留学を経て～

..... 人文学科4年 松下 恵利菜

私は2011年9月から2012年の5月までフランスの西方に位置するレンヌ第二大学で勉強する機会をいただきました。レンヌ第二大学との締結後初めての交換留学生だったので、様々な準備にあたふたしながらの出発でした。到着後、留学先の寮、大

学、ビザの手続きなどを終え、私ともう一人の留学生はレンヌ第二大学が開講する外国人向けの授業を取りました。そこでは、フランス語の文法、発音練習、歴史や文学など、すべてフランス語で行われ、各国から留学してきた学生がいました。

最初は、あまり先生の言っていることが理解できず、とても不安な時期もありました。しかし、言語では分からなくとも、授業についていこうという意欲と、周りにいる友達との触れ合いで、数か月かかって、その講義にも慣れていくことができました。

また、クラスには多くの国籍が入れ混じっており、そこでは、フランスを知る以前に、各国の文化から生まれた授業に対する態度の違い、発言力の強さを感じました。ここで学んだことは、単に言語ではなく、世界に存在する文化の違い、世界が思う日本、世界における日本の立ち位置など気づかされる環境でした。

日常生活では、毎日がフランス人との触れ合いでした。滞在する寮では、フランス人の学生と同じ建物であったため、食事の際は彼らと主に過ごしました。みんなフレンドリーで、私が日本人というと、日本のことについていろいろ聞いてきたり、真面目な話になると、日仏の教育制度、社会制度の違いなどを話し合える本当に良い機会でした。

夜には、日本に興味があるフランス人が開催するいわゆる飲み会が月1程度開かれ、そこでもまた、日本とフランスの文化を伝えあう場となりました。ここでは、ただ私たちが思う日本を伝えるだけでなく、フランス人彼らが思う日本について知ること、私も知っているようで知らない奥深い見解もあり、やはり、違う文化に生きる人々との触れ合いは大事であり、ただ単に自分が他の文化に触れ合うだけでなく、私自身が生きてきた文化に対する相手の意見、そしてそこから見えてくる本当の文化のあり方を知ることはとても大事なことだと思いました。



私がフランスに滞在する期間、フランス各地の名所にも旅行へ行きました。もちろん、学校から主催

される企画で参加したものもありますが、多くは、友達と地図を見て、さまざまな観光地へ訪問しました。そこでも、電車やバスなど、公共機関を通す上で出会いもあり、フランスの土地に踏み入れたことで、フランスの文化を象徴する様々な建造物や街並みを観賞できただけでなく、そこに生きるフランス人との触れ合いも大きな体験となりました。

私にとって留学とは、言語を習得することが大前提であるものの、やはりその国に生きる人々との関わり、そしてその文化に直接触れて発見すること、が一番大きなことだと思います。よって私にとっての留学とは、違う文化と自国の文化の再発見となりました。

演習・特殊研究の野外実習支援

..... 経済情報学科3年 小久保 伊織

大前ゼミは経営学を学ぶゼミです。私たちゼミ生は、毎年恒例で東京夏合宿を実施しています。東京ディズニーリゾート(以下 TDR) 研修、工場見学を通して、経営学やゼミで行っているプロジェクト運営のヒントをつかむのが主な目的です。周囲からは「ディズニーで何が学べるんだ」、「どうせ遊び」とよく言われます。もちろん遊ぶことを否定しません。しかし、この夏合宿には価値観や物事への取り組み方が大きく変わるような学びの要素が多く含まれています。

まず、合宿の準備ですが、航空券の予約、ホテルの予約、TDRパークチケットの予約、合宿にかかわる様々な交渉や情報収集などすべて学生で行います。学び、楽しさ、価格、あらゆる面で満足度を追及していきます。ちなみに今年の夏合宿費用は2泊3日、豪華な食事も1食付で42,000円。これは何事も徹底的に追及するということの結果だと思います。

肝心のTDR研修ですが、TDRにやってくるお客さんの98%がリピーターであるのはディズニーが人気だから、アトラクションが楽しいからという表面的な理由だけではなく、TDRで働く人のホスピタリティーが関係しています。そこに私たちはヒントを見出しました。

TDRで働く“キャスト”と呼ばれる人たちの9割が私たちと同じようなバイトであるというのは、有名な話です。そんなキャストたちがなぜあれほどに人々を満足させ、喜ばれるのか、実際に感動を体験できるというのも本合宿の大きな魅力です。

結論を言うと、確かに配慮ができていし、笑顔でホスピタリティーも感じるのですが、何か特別なことをし

ているわけではありません。やっていることは当たり前のことなのです。

また、今年は味の素川崎工場、北嶋絞製作所の2つの工場見学も行いました。一方は大規模な機械生産、



もう一方は熟練職人の腕による生産を行っている工場です。まず驚いたのは、味の素川崎工場の従業員の少なさです。生産工程の1つのラインで従業員は1人か2人。最終チェックのような作業だけは徹底して従業員が行っていたのが印象的でした。機械生産とはいえ、作業項目によって機械と人とのバランスが大切なのだと思います。

北嶋絞製作所の社長さんの言葉が印象的でした。「どんな仕事も引き受ける。絶対に“無理”から入らない」。私たちはなにかというと「できない」「絶対無理」と自ら可能性をつぶしていないだろうか。なんとかする、とにかくやってみる、そんな姿勢が社会からは求められているのだと感じました。

この合宿で学んだことは特別なことではありません。TDRや工場で働く人たちは当たり前のことを徹底しています。これほど難しいことはないが、私たちが今すぐできることでもあります。

講義を受けるだけでは、理解できなかったり、なかなか見えてこなかったりすることって意外と多いのではないのでしょうか。この夏合宿は、社会を実際に目で見て大切なことを肌で感じるができる数少ない学習の機会です。

釜山海外野外実習支援

..... 経済情報学科2年 胸元 翔大

9月18日から21日にかけて市川英孝先生と、そのゼミ生である私たち19名は、韓国の釜山において勉強合宿を行いました。3年生の綿密な計画のもと、非常に有意義な4日間を過ごすことができました。

フィールド学野外実習支援

～人文学科フィールド学実習(地理学) 「宮崎・大分巡検」報告～

…………… 人文学科3年 南 はるか

2012年9月8日から12日の5日間、私たちは地理学の野外実習のために、宮崎・大分を回り、実際に各地域を肌で感じることで地理学に対する理解を深めてきました。ここでは実習中の主な調査について報告致します。

日田では、「いいちこ」で有名な三和酒類(株)の蒸留所を訪問し、麦焼酎の製造過程を間近で見学しました。大分県の実地産業を代表する酒造で聞き取りを行うことで、その成立や課題を明らかにしていきました。

別府・湯布院では、まちあるきや観光協会への聞き取りを通して、両地域が温泉観光地として発達してきた過程を比較しました。ボランティアガイドとして活躍されている地域の方と触れ合い、観光地である地元の努力を感じることができました。

佐賀県では、「関サバ」「関アジ」などに代表されるような水産物のブランド化を成功させた例として、漁業協同組合への聞き取りを行いました。

宮崎県では、各地のJAや県庁、市役所を訪れ、宮崎の農業や畜産、観光について、行政や組合、地域の方々の取り組みを調査し、様々な視点からお話を伺うことができました。



また、高千穂峡や日南海岸の鬼の洗濯板などの自然地形を観察して、果てしない時間をかけて形成された大地の営みに感動し、自然の雄大さを実感しました。

今回の実習では、それぞれが調査テーマを持ち、事前学習をしたうえでこの野外実習に臨み、現地調査・観察を行いました。実際に見て、聞くことで、普段大学の中だけでは学ぶことのできない地域の魅力に気づくことができ、各自非常に有意義な時間を過ごすことができました。この貴重な体験を、今後の学習や研究に活かしていきたいと思っています。

釜山は、韓国では第二の都市として知られ、大規模なデパートなどの商業施設や廉価な商品が所狭しと並ぶ国際市場という場所があります。博多から釜山まで高速船で約3時間、飛行機で約1時間という近距離に位置していることもあり、買い物を目的とした日本人の観光客が多く訪れるそうです。

地下鉄の駅に入った時に、日本からの観光客が多いということを最初に実感しました。地下鉄は機械による自動化がすすめられており、滞在中にほとんど駅員を見ることがありませんでした。しかし、切符販売機の前には、販売機の使い方を日本語で案内する人がいたので、韓国語が分からなくても不自由なく利用することができました。

また、釜山には、世界規模の展示や会議などのイベントが催される BEXCO という、サッカーの競技



場の約3倍の大きさを誇る巨大な施設があります。私たちがそこを訪れたとき、地球環境に関する問題を世界中の企業が扱ったブースが多く設置されていました。海水を淡水化して飲用水にする装置の模型を見たときには、多くの国で水資源が貴重な存在とされていることを再び認識することができ、そして、風力発電機をはじめとしたクリーンエネルギーの最新の利用技術の展示を見たときには、エネルギー資源の確保が世界の国々で共通の課題となっていることを改めて確認することができました。

この合宿に際して、私たちは韓国における礼儀作法・慣習・食文化、そして経済など様々な分野を事前に調べていたのですが、現地を訪れなければ、決して知りえなかったことに目を見張ることが度々ありました。私としては、このような貴重な経験を無駄にすることなく、今後の糧としていきたいと思っています。

今回の合宿に当たり、旅費と交通費の一部を後援会よりご支援を賜りました。最後になりましたが、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

大学院生の学会発表支援

～西日本宗教学会第2回福岡大会参加報告～

・・・人文社会科学研究科地域政策科学専攻3年 町 泰樹

私は、文化人類学と宗教学を専門としながら、奄美群島における宗教文化の変容について、特に与論島の葬儀や民俗信仰の変容過程に焦点を当てて研究をしています。この度、平成24年3月31日から4月1日に福岡大学で行われた西日本宗教学会第2回学術大会に参加し、「地方神職のライフヒストリーにみる国家・宗教・民俗―鹿児島県与論島の事例から―」というタイトルで口頭発表をさせていただきました。

発表内容は、平成23年9月から平成24年2月までに聞き取り調査を行った、鹿児島県与論島で神職を務める一人の男性のライフヒストリーに関するものです。彼が神職を務めるようになった背景には、①先祖が与論島の聖域であるウガンの守役を務めていたこと、②ウガンは明治初期の宗教政策によって神社となったこと、③守役の役目が母方祖父の移住によって途絶えてしまったこと、④移住先で兄の死をきっかけとして母親が神憑りを経験して先祖から引き継ぐべき役割が再発見されたことの4点がありました。神社制度の歴史に重点が置かれた従来の研究に対して、個人の生活史に刻み込まれた制度の変遷や在地の宗教文化（奄美・沖縄におけるシャーマニズム）の影響を提示することで、この方法が歴史資料の乏しい奄美群島の神社を考える際に有効であることを示しました。

発表後は、様々な立場の先生方から質問やコメントをいただくことができました。奄美・沖縄のシャーマニズム文化における発表事例の位置付けや、神職が実際に生活してきた戦後の歴史と役割受容との関連性、他地域との比較等、今後の研究を発展させる上で重要な視点が得られました。

また、3月31日に開催された公開シンポジウム「死者のフォークロア～人類学・民俗学・宗教学～」では、各分野の最前線で活躍されている先生方の議論を拝聴し、その後の懇親会においてさらに議論を深めることができました。4月1日には、個人発表をされていた他大学の大学院生や先生方とも、現在の研究状況や最新の研究動向について情報を交換することができました。

さらに、本大会における発表を発展させ、平成25年に刊行される査読付き学術雑誌『西日本宗教

研究』に論文を投稿し、採録されることが決定しています。このように、学術大会への参加によって、研究をさらに深化させることができました。今後も、奄美群島の近代における宗教変容について研究を進め、ローカル社会における宗教や文化のダイナミズムを学生や一般の方々に伝えられるよう研鑽してまいります。

今回の参加にあたり、法文学部後援会より旅費の一部を補助していただきました。この場をお借りして後援会関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。地方大学の学生にとって、他大学の院生や研究者と交流し学問的知見を深められる学会参加は大変貴重な経験です。他の学生の研究発展のためにも、今後とも温かなご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

保護者の皆様からのメッセージ

保護者の皆様からいただいたお便りの一部をご紹介します。

◎法政策学科3年生 保護者・・・・・・・・・・・・・・・・

子供に逢うことも兼ねて、第10回後援会総会に出席しました。事業報告では限られた予算の中での精一杯の活動がなされ、また学生さん達による活動報告も聞くことができました。

懇親会では、成人した者への叱咤激励の難しさを話されましたが、気にかけていただいているという気持ちが伝わり、新幹線を使つての鹿児島行きでしたが、有意義な一日となりました。

◎経済情報学科1年生 保護者・・・・・・・・・・・・・・・・

鹿児島大学新聞号外を読ませていただきました。以前からチッソという企業が今も存続していることに疑問を持っていました。あらためて多くの被害者の方が苦しんでおられる悲劇に私達ももっと目を向けていかなければならないと思いました。

今後新聞に紹介されている書籍 石牟礼道子著「苦海浄土」講談社文庫、原田正純著「水俣病」岩波新書を読んだり、水俣を訪れて水俣資料館や水俣病歴史考証館を見学してみたいと思っております。

◎法文学部1回生 保護者

「我が子の成長に思いを寄せて」

前期試験結果発表日の朝、会議中に受けた「受かったよ」という息子からの短いeメールを見たときの喜び。そして、雨のなか昼休みに鹿児島大学に行って、合格発表掲示板に書かれた受験番号を見たときの、嬉しさに涙が止まらなかったあの日の感激は忘れられません。

入学式の日の朝、スーツを初めて着てはみたもののネクタイの締め方が分からない息子から、「お父さん、ネクタイを締めて」と言われ、目尻を下げてネクタイを結んでやったときの幸せ。県立体育館の2階から息子を熱く見つめた入学式から早や約9ヶ月が経とうと

しています。

息子も真面目に大学に通っているようであり、サークル活動にバイトに友人との付き合いにと、充実した大学生活を送っていることには安心していますが、やはり約2年後に控えた就職活動のことを考えると、「大学ではしっかり勉強して欲しい」「目標を定めて早く準備して欲しい」など、親として思いは尽きることはありません。

自分が行きたくとも行けなかった地元の国立大学に通う息子を誇りに思うとともに、お世話になっている鹿児島大学法文学部のますますの発展をご祈念いたしております。

平成 24 年度 保護者アンケート集計結果

今回の平成 24 年度保護者アンケートにつきましては、平成 22 年度に続き 2 年ぶりの調査となりました。アンケートの実施方法は、法文学部及び大学院人文社会科学研究科の保護者の皆様を対象に、平成 24 年 6 月に後援会総会の開催通知に同封し、1266 名の保護者あてに送付して、454 名の方からご回答いただきました（回収率 35.9%）。お忙しい中、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

さて、今回のアンケートでは、保護者の約 9 割の方が、お子さんが本学部・研究科で学んでいることに「非常に満足」又は「満足」と回答されており、たいへん有り難い結果となっております。また、多くの保護者の方が、お子さんに「幅広い教養」、「高度に専門的な知識」、「資格、免許などを取得するための知識」、「人とコミュニケーションを行う能力」を身につけて欲しいとお考えであること、大学からの「学習成果（特に成績）」や「就職支援」に関する情報提供を強く希望されていることが明らかになりました。

今回のアンケート結果をもとに、保護者の皆様のご期待に添えますよう、今後もより一層、教育の充実に取り組んで参りたいと思います。

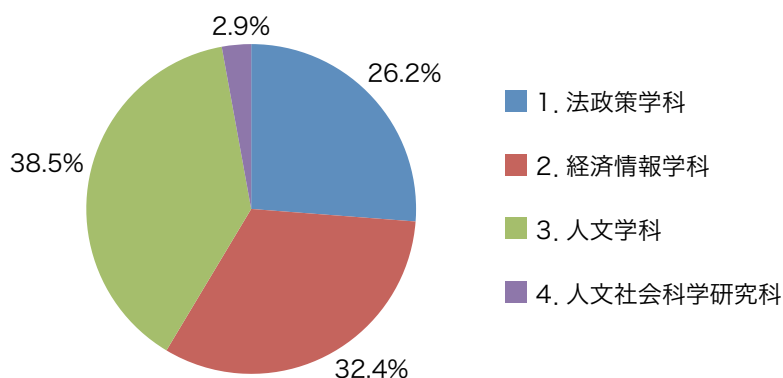
法文学部学生生活委員会

◆お子さん(被保護者)についてお答えください。

【回答者のお子さん(学生)の所属】

法文学部：1. 法政策学科
2. 経済情報学科
3. 人文学科

大 学 院：4. 人文社会科学研究科



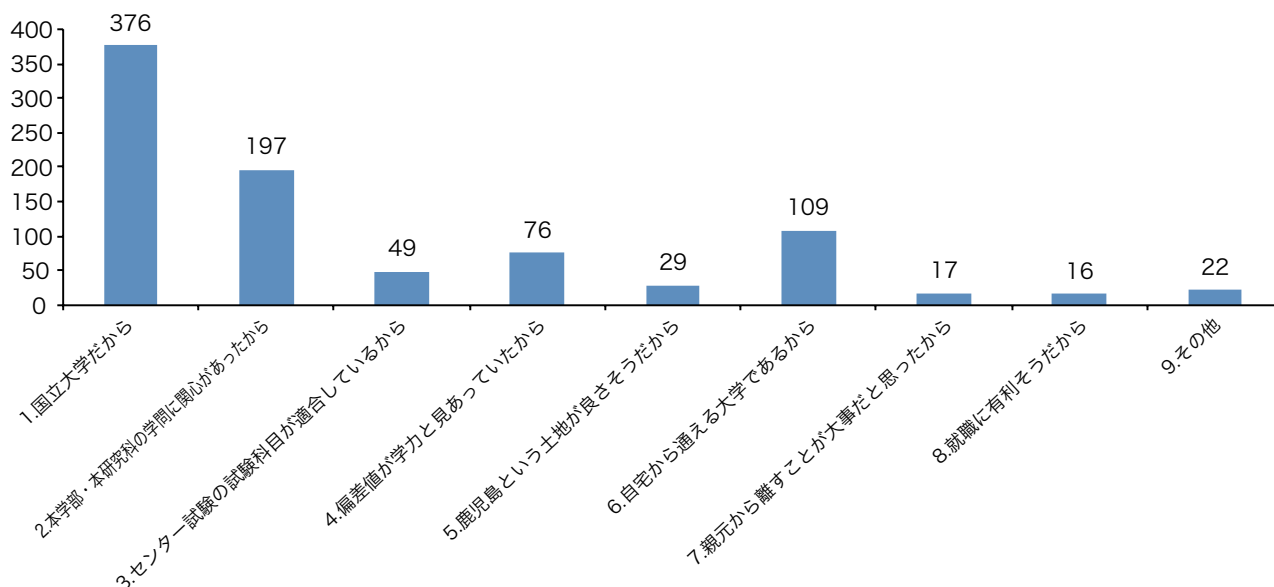
◆お子さんの入学に関してお答えください。

①お子さんが本学部・本研究科に入学した理由は何ですか。

以下の項目から2つまで選んでお答えください。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 国立大学だから | 6. 自宅から通える大学であるから |
| 2. 本学部・本研究科の学問に関心があったから | 7. 親元から離すことが大事だと思ったから |
| 3. センター試験の試験科目が適合しているから | 8. 就職に有利そうだから |
| 4. 偏差値が学力と見あっていたから | 9. その他（ ） |
| 5. 鹿児島という土地が良さそうだから | |

【入学理由】

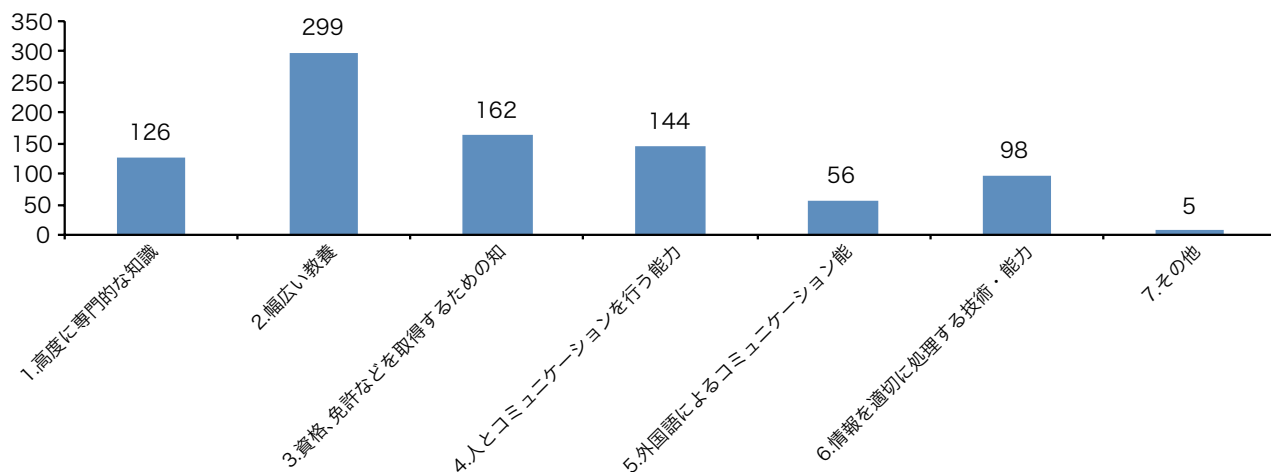


②お子さんが本学部・本研究科でどのような知識や学力、能力を身につけてもらいたいですか。

以下の項目から2つまで選んでお答えください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 高度に専門的な知識 | 5. 外国語によるコミュニケーション能力 |
| 2. 幅広い教養 | 6. 情報を適切に処理する技術・能力 |
| 3. 資格、免許などを取得するための知識 | 7. その他（ ） |
| 4. 人とコミュニケーションを行う能力 | |

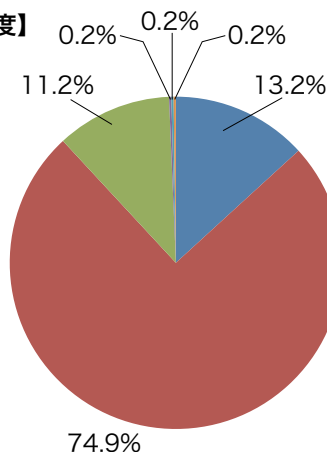
【身につけてもらいたい知識や学力、能力】



③お子さんが本学部・本研究科で学んでいることに満足していますか。

1. 非常に満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. 非常に不満である

【保護者の満足度】



1. 非常に満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. 非常に不満である
6. 不明

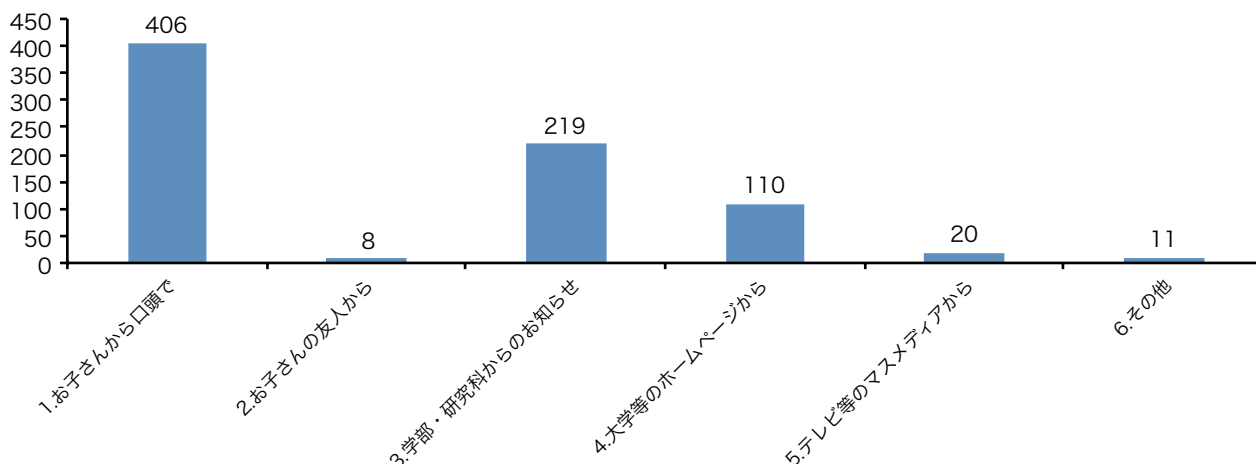
◆本学部・本研究科から保護者に対する情報提供についてお答えください。

①本学部・本研究科の動向やお子さんの学習等についてどこから得ていますか。

以下の項目から2つまで選んでお答えください。

1. お子さんから口頭で
2. お子さんの友人から
3. 学部・研究科からのお知らせ
4. 大学等のホームページから
5. テレビ等のマスメディアから
6. その他（ ）

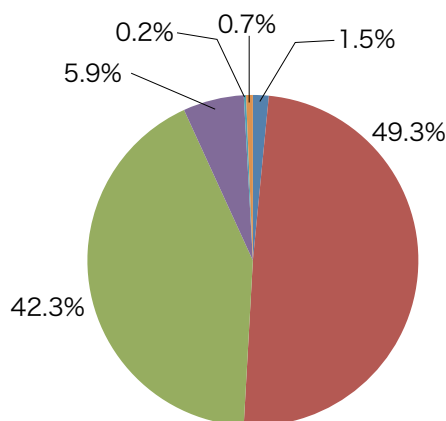
【学部や子どもの情報はどこから得ているか】



②本学部・本研究科からの情報提供に満足していますか。

1. 非常に満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. 非常に不満である

【学部からの情報提供に満足しているか】



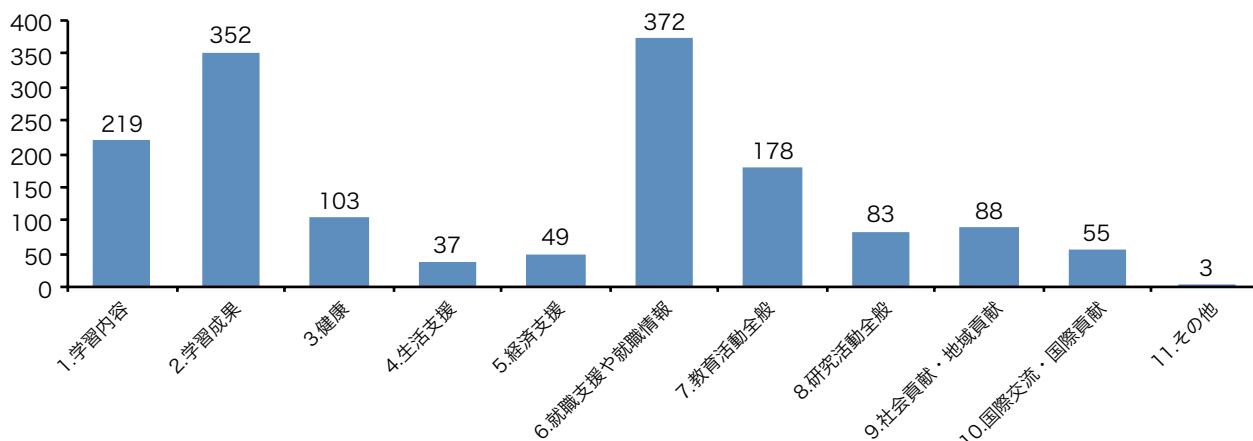
1. 非常に満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. 非常に不満である
6. 不明

③お子さんに関連して、もっと知らせてほしい情報は何か。

以下の項目から、4つまで選んでお答えください。

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 学習内容（教育内容や学年歴、授業時間割等）に関する情報 | 7. 本学部・本研究科の教育活動全般に関する情報 |
| 2. 学習成果（成績や単位修得状況等）に関する情報 | 8. 本学部・本研究科の研究活動全般に関する情報 |
| 3. 健康（健康診断結果、健康相談の内容等）に関する情報 | 9. 本学部・本研究科の社会貢献・地域貢献に関する情報 |
| 4. 生活支援（アルバイトやアパートの斡旋等）に関する情報 | 10. 本学部・本研究科の国際交流・国際貢献に関する情報 |
| 5. 経済支援（授業料免除、奨学金等）に関する情報 | 11. その他（ ） |
| 6. 就職支援や就職情報に関する情報 | |

【もっと知らせてほしい情報は何か】

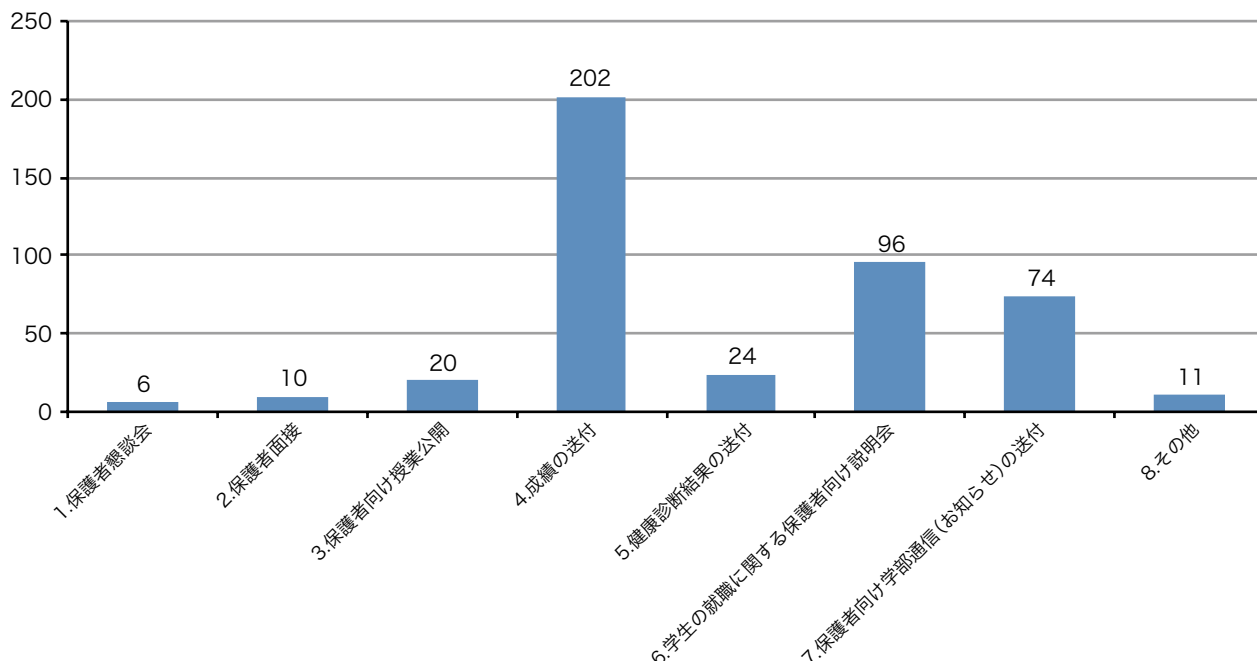


④お子さんに関連して、保護者向けに実施してほしいことは何か。

以下の項目から1つだけ選んでお答え下さい。

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1. 保護者懇談会 | 5. 健康診断結果の送付 |
| 2. 保護者面接 | 6. 学生の就職に関する保護者向け説明会 |
| 3. 保護者向け授業 | 7. 保護者向け学部通信（お知らせ）の送付 |
| 4. 成績の送付 | 8. その他（ ） |

【保護者向けに実施してほしいことは何か】



アンケートで寄せられた意見や要望

教育・研究について

- お世話になります。素晴らしいゼミの教授に教わっているらしく、子供の話に親も満足致しています。
- 娘から先生方によくして頂いているという感謝の報告ばかりです。
- 楽しい授業があるときいている。
- ゼミの授業が充実して楽しいようです。これからも宜しくお願いします。
- 今年は地元紙南日本新聞にて鹿児島大学各学部活動記事を読む機会が多く大変嬉しく感じております。地元地域での活動が大学を身近に感じさせてくれます。今後も皆様のご活躍を期待しています。
- 将来像がみえてくるよう(目標を持てるよう)ご指導よろしくようお願い申し上げます。「大学は出たけれど・・・」にならないよう、願っています。親として何をしたら良いものかもわからずです。
- 地域社会や企業と連携して、学んだ事を何らかの形に残せる取組があれば、と思います。法文学部に限ったことではありませんが、鹿児島大学はオリジナルブランドの商品等もほとんどなく寂しく思います。
- 鹿大独自の教育や研究をもっと知らせてほしい。大都市だけが日本の中心でないので鹿大生にもっと自信を持ってほしいです。
- 学習塾を長年経営し、これまでに3名ほど貴学部で学び、公務員になっております。末娘がお世話になり奇縁・・・どうかユニークな学部を発展させて下さい。
- 授業取得(?)時間割を決めるのに苦労した様子です。もっと学校側からの説明が必要では?と思いました。
- 第二外国語を選ぶ時、時代の流れ、需要等を考慮して中国語・韓国語等の枠を増やしてほしい(希望する語学が学べるように)。
- 子供に自立して欲しいので何もしないで欲しい。

就職・進路について

- お世話になります。3年生となり就職に関して親としてもとても不安を感じています。今後ともご支援よろしくお願い致します。
- 無事に就職内定をいただくことが出来ました。ありがとうございました。
- 只今就職活動中ですが、熱心なご指導に感謝申し上げます。有り難うございます。
- ご指導ありがとうございます。就職が内定し卒業できることのみ祈っています。
- 就職情報が不足している。他大学はもっと積極的です。
- 就職に関する早目の支援を行ってほしい。
- 今年度は休学しロンドンの方で英語を学んでいます。11月には戻りますが、就職が心配です。少しでも情報を頂けたら助かります。よろしくお願いします。

大学生活について

- あと数ヶ月となりましたが、鹿大でのびのび生き生きと学んでいる姿、うれしく思うばかりです。ありがとうございます。
- 学部・学科への意見ではございませんが、夏場のエアコンの湿度が低くて、体調が悪い日が多いようです。又、大学内、大学周辺の治安も大変気になっております。学内の建物内でも不審者や盗難があるそうですね。大変残念です。
- 学校内で防犯上必要と思われる事案に関しては、「知ることで防ぐ」ことが大切だと思いますので、引き続き注意喚起をお願いします。
- 遠方のためなかなか出席できず申し訳ありません。平日に学内の子供の様子が見れたらと思うのですが、

アッという間に4年生になってしまいました。充実した大学生活を送っているようで感謝しております。
○大学生は社会人と同じく自己責任ではあるが、進路状況、健康状態などチェック、声かけがあれば、安心。

情報提供について

- 鹿大日よりでは、毎号、情報をわかりやすく提供していただき助かっています。
- 公報等で大学の様子がわかるのでたいへん良いと思います。
- 定期的に学部広報誌の様なもので、情報を広く知らせて頂けたらと思います。
- 他大学に比べて保護者向けのアピール等など外に向けた情報が大変不足している。
- 法文学部の卒業生の進路選択の経験談を冊子にまとめて保護者に送付していただきたい。その冊子を読めば、何年生の時点でどういう準備をすればよいか分かるような、講義やサークル活動が資格取得や就職活動にどのようにつながっているのか分かるような読み物を是非作成していただきたい。
- 親元から離れて生活しているし、こと細かく大学の話をする方でもないの、親としては、もっとくわしく大学の様子や教育課程の内容、就職情報等を知らせていただけたらと願っています。
- 就職に関する情報等の送付。
- 就職に関して、もっと情報が欲しいです。3年生なので、一番気になる事です。
- 本校、他校へのロースクール進学のための情報提供など。
- 健康に学校に行っているか知るため出席状況の把握。
- 授業公開ぜひお願いします。
- 部活動の時間帯について（情報提供してほしい）。
- 学科・コースの取り組みや内容をもっと知りたい。ホームページを充実するなど工夫がほしい。
- ホームページがわかりにくい。
- ホームページをもっと充実させて欲しい、情報が少ない。
- 保護者への連絡に使う時間、労力を教育に使って欲しい。
- 大学生は大人です。成績も就職も本人の自己責任でやるべきです。保護者が子供に介入すべきでない。保護者の役目は授業料の支払いぐらいです。
- 子供が自分で学んでいる事ですので、連絡（他の情報）はいりません。
- 子供がわかっているれば子供からの情報で満足です。

成績送付について

- 生徒の成績、出席状況、授業態度などを前期・後期と知らせてほしい。
- 年一回程度の学業成績等の報告を特に希望致します。
- 遠方なので、なかなか日程があわなかったりするので、成績や修得状況等は特に気になります（授業時間割等も知りたいです）。いつもお世話になり有り難うございます。
- 遠方なので授業に出ているかどうか分かりません。著しく学業に問題があれば知らせていただければ、取得単位名と単位数ぐらい教えていただきたいです。
- 成績の送付はぜひお願いします。長女の大学時代（国立）は送付があっていました。
- 大学1年の時から成績の送付をしてほしいと言っていたが、実現できず残念です。
- しっかりした子なので勉学に対する不安はないが、成績表等の親元への送付がないので全くわからない。
下の子は今春から福大に進学したが、6月に保護者懇談会があり個別相談会もあったので、とっている授業・出席数まで資料をくださり、試験の成績は郵送するとのことと安心でした。鹿大もぜひ！
- 鹿児島大学だより以外にも成績表とか、本人の学校での様子がわかるような資料が送付されたら良いと思います。
- 毎年、成績の送付を希望すると要望を書きましたが、ぜんぜん実施してもらえませんでした。

- 成績表や出席など送付すべきです。
- 成績、健康診断の結果のどちらも。
- 工学部は親に送付されている。

大学院について

- 専門的に学ぶ為に研究科に入学致しました。鹿大内だけでなく、他の大学との交流や学会等にも出席できるように資金援助も宜しく願います。
- 海外留学の費用援助などを考えてほしい。
- 査読論文を3本以上書いた学生には博士号を優先して与えるべきである。特に修士も鹿児島大学の学生に。

後援会について

- 今後もこのような会を開催して下さいようお願い致します。
- 毎回楽しみに出席させて頂いております。
- このようなアンケートを実施なさることで、現状に甘んじることなく、向上、改善を目指そうとする学部の姿勢が伝わってきます。保護者としても頼もしく有り難く感じています。今後ともよろしくお願いします。
- 大学に入ってまでもPTAごときものがあることに驚きました。成人に向けての段階にそこまでする必要があるのか？どんな社会人育成？

【「成績送付」について】

ご要望の多かった「成績送付」につきまして、法文学部の現状をご説明させていただきます。

法文学部では、修学指導の一環として、前期と後期終了後の年2回、その期の修得単位数が基準以下であった成績不振の学生の保護者あてに、成績を通知しています。

また、成績不振の学生に対しては、指導教員・クラス担任等が面談のうえ、助言・指導を行い、その指導内容について「助言・指導実施報告書」を作成して、法文学部長へ報告するとともに、学科の関係教員等が連携してきめ細やかな修学指導を行っています。

なお、成績証明書は、大学会館や附属図書館に設置してある「証明書発行機」により、平日の時間内（8：30～18：00）であれば、いつでも発行できます。

平成24年度後援会役員一覧

会 長：緒方 直人	(司法政策研究科) 清野 正智
顧問：平井 一臣	(臨床心理学研究科) 溝上 政弘
副会長：西 啓一郎、阿多 真紀子	理事〔教 員〕：
常任理事：金丸 哲、中島 大輔	(法政策学科) 眞砂 康司、小山 憲明
理事〔保護者〕：	(経済情報学科) 中島 大輔、山本 一哉
(法政策学科) 森 茂、小野 岩男、庭田 正治	(人文学科) 杉原 洋、竹岡 健一
(経済情報学科) 阿多 真紀子、門園 史郎、	(司法政策研究科) 村山 洋介
藤崎 昌典	(臨床心理学研究科) 松木 繁
(人文学科) 有村 幸子、西 啓一郎、後藤 美佳子	監査：安永 いづみ、土居 正典
(人文社会科学研究科) 緒方 直人	監事：湊 哲郎

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話 099-285-7510、7517 FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp ○後援会ホームページ：http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/